

Mint Club



造幣局

「Japan Mint Collection In 表参道」 (造幣東京フェア2003)

造幣局は、多くの皆様に造幣局の行っている事業や貨幣に対する理解を深めていただくための展示会を行ってきていますが、このたび東京及び札幌におきまして展示会を開催いたしました。

今年で第10回目となる造幣東京フェアは、7月19日（土）から23日（水）までの5日間開催いたしました。

今回は、若い方たちにも造幣事業全般に対する理解を深めていただくこと、また、今後の商品開発の参考とするため渋谷区表参道 新潟館「ネスパス」において開催し、開催を記念した貨幣セットを販売いたしました。

また、造幣局IN札幌は、8月8日（金）から13日（水）までの6日間、北の都札幌で開催し、開催を記念した貨幣セットを販売いたしました。

さっぽろ東急百貨店9階催し物会場で行われたこの催しも今回で8回目を迎えるました。会場には、貴重な古銭や勲章などを展示し、期間中多数の方々が来場されました。

「Japan Mint Collection In 表参道（造幣東京フェア2003）」



表参道プルーフ貨幣セットにつきましては、若干の在庫がございますのでお客様サービスセンターにお問い合わせください。 TEL 06-6351-2626

及び「造幣局 IN 札幌」を開催

「造幣局 IN 札幌」



予告：「江戸開府400年」を記念する
貨幣セットを販売

造幣局では、今日の東京の礎を築いた江戸の歴史や文化を振り返り、江戸時代の魅力と文化を江戸開府400年記念「江戸の金貨展」（仮称）の開催により発信したいと考えています。

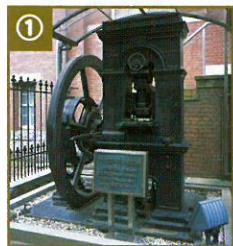
また併せて、「江戸開府400年」を記念して、「江戸開府400年貨幣セット」（プルーフ貨幣セット及び貨幣セット）を販売することとしています。

1. 開催期間 11月初旬を予定
2. 開催場所 造幣局東京支局構内

造幣博物館

春・夏号で造幣博物館の概要について紹介しましたが、本号からは展示している史料の数々を紹介します。

貨幣の探検前に、造幣局の創業当時の史料について紹介いたします。



1. 壓印機

博物館正面の横に設置されている圧印機で、創業当時使用されていたものです。

①フランス製圧印機（トネリー社製）

慶應4（1868）年閉鎖状態にあったイギリスの香港造幣局の機械一式を6万両で購入した圧印機のうちの1台で、明治4（1871）年の創業当初、金・銀貨幣の製造に使われていた圧印機です。



②ドイツ製圧印機（ユロル社製）

創業とともに作業が順調に進み、新しい圧印機として明治5（1872）年に購入された大型圧印機で、1分間に60枚程度の圧印能力がありました。



2. 大時計

入口を入ってすぐ目に飛び込んでくるのが、この大時計です。この大時計は、造幣局創業当時の工作方技師大野規周（おおののりちか）が、明治9（1876）年6月に製作したもので、当時の工場の正面に取り付けられ、局内に時刻を知らせしていました。

平成10（1998）年1月に修理を行い、明治の昔そのままに刻（とき）を告げる鐘の音を響かせるようにしました。

3. 創業当時の造幣寮全景模型（1／300）

創業当時の造幣寮の全景を、当時の古地図（明治6（1873）年作成）をもとに忠実に復元した模型で、当時の工場・宿舎地帯等の配置や所在地が一目瞭然にわかるものです。当時の敷地は約18万m²（5万6千坪）ありました。

4. 手廻し計数器

明治3（1870）年製で、当時の工作方技師大野規周が製作したもので、一回転で貨幣24枚を計数することができ、金・銀・銅貨幣の計数に使用されていました。



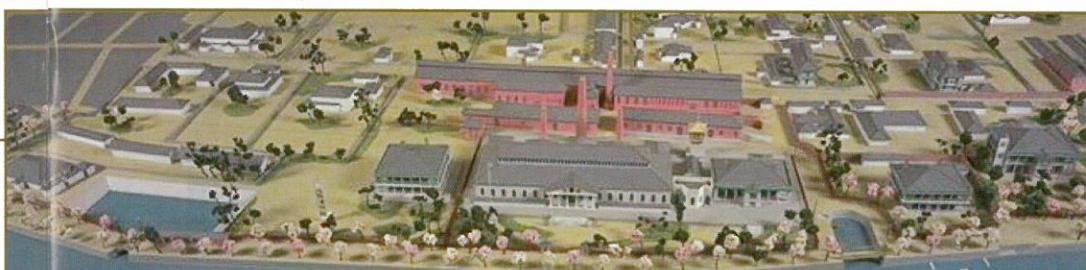
5. 自動天秤

正しい量目の金貨幣を製造するため、円形をオートマンといわれた自動天秤にかけて1枚づつ重さを量り選別していました。この天秤は初期のものを改造したもので、1分間に20枚程度の選別能力がありました。



7. 天秤

明治初期に試金分析に使用されたもので、創業当時はこのような天秤などの精密機械が多く輸入され、これらの機器を手本に造幣局製の天秤などが製作されました。



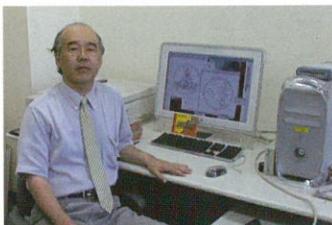
館内では貨幣セットやメダルなどの金属工芸品を販売しています。
ご来館時にお立ち寄りください。

記念貨幣の第3回目です。
工芸管理官は造幣局の独立行政法人化にともない、
工芸課となりました。

*作者の内青色は8月1日現在、造幣局で勤務する工芸職員です。



貨種別	原図製作者	原型製作	発行年
⑯ 裁判所制度百周年記念 5,000円銀貨幣	表 裏 金子 光則 谷口 俊弘	表 裏 川隅 重美 片野 章	平成 2年
⑰ 議会開設百周年記念 5,000円銀貨幣	表 裏 余越 久人	表 裏 片野 章 中村 和彦	平成 2年
⑱ 天皇陛下御即位記念 100,000円金貨幣	表 裏 平山 郁夫 余越 久人	表 裏 松岡 隆範 川隅 重美	平成 3年
⑲ 天皇陛下御即位記念 500円白銅貨幣	表 裏 谷口 俊弘	表 裏 中村 和彦 松岡 隆範	平成 2年
⑳ 沖縄復帰20周年記念 500円白銅貨幣	表 裏 余越 久人 金子 光則	表 裏 川隅 重美 中村 和彦	平成 4年
㉑ 皇太子殿下御成婚記念 50,000円金貨幣	表 裏 平山 郁夫 余越 久人	表 裏 川隅 重美 金子 光則	平成 5年
㉒ 皇太子殿下御成婚記念 5,000円銀貨幣	表 裏 余越 久人	表 裏 中村 和彦 金子 光則	平成 5年
㉓ 皇太子殿下御成婚記念 500円白銅貨幣	表 裏 余越 久人	表 裏 松岡 隆範 金子 光則	平成 5年
㉔ 関西国際空港開港記念 500円白銅貨幣	表 裏 金子 光則 原田 卓三	表 裏 金子 光則 川隅 重美	平成 6年
㉕ 第12回アジア競技大会記念 500円白銅貨幣	表 裏 安田 寛 余越 久人	表 裏 安田 寛 中村 和彦 川隅 重美 片野 章	平成 6年



余越久人
(工芸指導官)



安田 寛
(工芸主事)



造幣博物館所蔵・外國章牌紹介 6



A | B

A. 國民教育ロオマ協議會賞牌、表。イタリア造幣局製。青銅。直徑44mm。重量43g。明るい茶色の煮込仕上。二段覆輪。女神の倚像。手に持つてゐる板には四種の幾何學の圖形が描かれてゐる。左下には「狼に育てられるロムルスとレムス」の像。此れはロオマを表してゐる。右に獸足三つ足の燭臺。此れは學問を表してゐる。下部弦月形部にラテン數字で「A · MDCCCLXXV (1875年度)」の文字。最下部に「F. SPERANZA」の凸文字署名がある。彫刻は端正で強く、氣品があつて實に美しい。覆輪、弦月形部との仕切、等も神經が行届いてゐる。原型彫刻家のFilippo Speranza (1848~1903)はイタリアのサン・マルティイノに生れ、ロオマ造幣局のチフ・エングレイヴァの職にあつた人である。當博物館に彼の作品は四點所蔵されてゐる。

B. 全左、裏。二段覆輪の内側にイタリア語で「LEGA ROMANA PER L'ISTRUZIONE DEL POPOLO (國民教育ロオマ協議會)」の文字。中央部に「AI SUOI BENEMERITI (貴下の功績に對して)」の文字。上部に五芒星。最下部に花形紋。此の章牌は國民教育ロオマ協議會より教育上功績のあつた人、又は團體に贈られるものである。小さいけれども美しい章牌である。

(元工藝管理官 松岡 隆範 記)

(本稿は、筆者の意向を尊重して筆者の表記をそのまま掲載しています。)

泉布觀・造幣博物館と 桜並木

—造幣局の文化遺産—



作道洋太郎
大阪大学名誉教授
経済学博士

大阪造幣局の創業式が挙行されたのは明治4年（1871）4月4日であったから、今から132年も前のことになる。創業一世紀を超える歴史を刻み込んだ場所だけに、造幣局の構内には歴史を感じさせる所が少なくない。

まずその第一に挙げられるのが、創業前年の明治3年8月の頃に建設された泉布觀である。これはお雇い外国人であったアイルランド人の建築技師トマス・ウォートルスが設計したもので、コロニアルスタイルの洋風の建物であって、応接館として役立てよう意図していた。泉布觀という命名は、中国の古語「宝貨之行如泉布」に由来するといわれ、造幣局で製造した新しい貨幣があたかも大川の流れのように流通するようにとの願いがこめられていた。明治天皇が明治5年5月から6月にかけて関西に行幸の時、泉布觀にご宿泊された。それ以来、「大阪行在所」と呼ばれ、大阪市民に親しまれてきた。現在泉布觀は造幣局の正面玄関と道路を隔てた向かい側の地区内にあるが、創業当時の正面玄関は現在の場所よりも少し南側の大川沿いの所にあった。この建物は大正6年に国有から大阪市の所有となり、昭和31年には重要文化財に指定された。毎年3月中旬の頃、2~3日間公開されているが、明治の面影を残す大阪の西洋館ともいえるような雰囲気を漂わせているだけに、もっと長期間、市民に開放されるのが望ましいと思う。

第二に、私が造幣局の文化遺産とも見ているのは、造幣事業100年記念に開設された造幣博物館である。これは古代から中世・近世を経て、近現代に至る日本の貨幣や、外国の貨幣もあわせて展示し、貨幣の外にも我が国の勲章なども展覧しており、千数百年にわたるわが国の貨幣の歴史がアジア諸国や欧米諸国との対比の中で理解できるようになっている。造幣博物館の貨幣展示品は日本貨幣約1,100点、外国貨幣約2,500点をはじめとして、その他の資料を合わせると、合計約88,000点にものぼり、その質量は日本銀行本店（東京）の貨幣博物館に次ぐもので、そのスケールは非常に大きい。都市銀行のなかにも充実した貨幣資料館を開設している所があり、今後における日本貨幣史の実証的な研究は、これらの貨幣博物館や資料館での研究成果に依拠するところが多いよう思う。

造幣博物館は創業当時の正面玄関に近い所にあった旧変電室の建物に拡張工事を行って開設されたものであり、大川筋に面し、造幣局の“桜の通り抜け”として知られる桜並木が美しい絶好の場所に設けられている。

泉布觀・造幣博物館について第三に挙げたいのが、この造幣局の八重咲きの里桜の並木である。毎年4月中～下旬に一般の人びとに開放し、大阪市民数十万人の人出で賑わう。関西の春は奈良二月堂の“お水取り”に始まり、造幣局の“桜の通り抜け”で終わ

るといわれるが、この“通り抜け”的一週間には浪花の行く春を惜しむ市民の人たちの情感が見られるように思う。

造幣局の対岸にある桜の宮は、由来桜の名所として知られ、江戸時代の錦絵にも桜の宮の風景が描かれているものが多い。現在の造幣局敷地内に伊勢・伊賀にその所領を持っていた津藩（藤堂家・32万石余）の大阪蔵屋敷があった。この蔵屋敷は「鈴鹿屋敷」とも呼ばれ、そこの八重桜が現在の造幣局の桜並木の母体となったと見られている。造幣局の建設当時の面積は5万6000坪に及んでおり、現在の造幣局の約2倍にあたる。“桜の通り抜け”は明治16年（1883）に造幣局長遠藤謹助の時に実現した。遠藤は長州出身で文久3年（1863）に伊藤博文、井上馨、井上勝、山尾庸三らとともに上海経由でイギリスに渡航し、ロンドンに留学した。そのためイギリス文明の洗礼を受けていた。造幣局の桜を「局員だけが花見していたのでは勿体ない。大阪市民とともに楽しもうではないか」という遠藤の発想も、政府機関の管理者の考え方とは少し違っており、こうしたところにも、町人の街として発展して来た大阪文化に影響を受けた点が見られる。

造幣局の桜の管理やその充実には歴代の造幣局長も力を注いだ。それに協力した民間人の中に 笹部新太郎がいた。 笹部は水上勉が小説『桜守』の中心人物のモデルとした大阪人で、生涯を桜の研究や品種の改良などに捧げた。 笹部は大阪堂島の船大工町の大地主の家に生まれ、北野中学校、第七高等学校造土館（鹿児島）、東京大学に進んだが、卒業後は官職への道を選ばず、日本のシンボルである桜の研究やその新しい展開を求めて独身で求道の道を歩み続けた。そこには一業専心ともいえるような堂島商人の心意気とも相通じるものがあった。

泉布觀の建物の2階のベランダから眼前に広がる淀川の景観を眺めていると、江戸時代に大阪三郷と総称された船場を中心とした北組や、心斎橋などの南組とはまた違った天満組の水郷ともいえる風景が目に映じてくる。造幣局のある川崎の地には、大阪天満宮がすぐ近くにあり、四天王寺や住吉大社などとともに大阪の庶民信仰のセンターとなってきた。また天満宮の傍を南北に通じている天神橋筋の商店街は古来「十丁目筋」ともいわれ、天満の地域の商店街として栄えてきたところである。天満には大阪独自の庶民性や活力に溢れた地域的特質が見受けられるよう思う。

[参考文献]

- ① 造幣局100年史編集委員会編『造幣100年』（昭和46年）
- ② 大蔵省造幣局編『造幣局百年史 資料編』（昭和49年）
- ③ 同編『造幣局百年史』（昭和51年）
- ④ 水上勉『桜守』新潮文庫（昭和51年）
- ⑤ 笹部新太郎『桜男行状』双流社（平成3年）



ご案内

純金平成大判及び家康メダルの販売について

本年は、徳川家康が江戸に幕府を開いてちょうど400年の節目にあたります。

そこで、徳川家康と江戸開府400年（慶長8年：1603年）に焦点をあて、当時の大型貨幣であり工芸品とも捉えうる慶長大判を参考にした純金製金属工芸品【平成大判】と【徳川家康肖像メダル】を販売する運びとなりました。

【平成大判】は、日本の金属工芸の伝統的技法の一つに挙げられる槌金技法を用いて、当局装金課職員が一枚一枚丹精こめて手作りしたものです。

なお、大判及び桐箱への墨書は、東大寺執事長で奈良県教育委員としてご活躍の、「上野道善」氏にお願いすることとしています。

【徳川家康肖像メダル】は、当局デザインの粋であるレリーフを最大限生かしたものです。

皆様からのお申し込みをお待ちしています。

○お申し込み要領

●同封のはがきでお申し込みください。

後日こちらから払込用紙を送付いたします。

●入金されてから、製品をお届けできるまで2ヶ月程度要する場合がありますので、予めご了承願います。

●お申し込みは、10月17日（金）必着でお願いいたします。

●お問合せ先 造幣局お客様サービスセンター

TEL 06-6351-2626

【平成大判】

仕様 素材：純金（ホールマーク及び製造番号入り、
なお、製造番号の指定はできません）

寸法：長径：約150ミリ、短径：約94ミリ

厚さ：約0.67ミリ、重さ：約155グラム

美麗な桐箱に収納しています。

販売数量 100個限定

お申し込み多数の場合は抽選となります。

なお、申し込み受付はお一人様1個限りとさせていただきます。

販売価格 500,000円（消費税、送料込み）



【徳川家康肖像メダル】

仕様 素材：純銀いぶし仕上げ（ホールマーク入り）

寸法：直径：60ミリ、厚さ：5.5ミリ

重さ：160グラム

美しいケースに収納しています。

販売予定数量 1000個

お申し込み状況によっては、販売数量を変更する場合があります。

販売価格 15,000円（消費税、送料込み）

平成15年10月～12月の貨幣セット販売予定

販売区分	種類	販売予定価格	販売予定期間	参考
通信販売貨幣セット	キャラクターメダル入りブルーフセット	円 未定	10月以降	セット _____
	プロ野球貨幣セット	円 未定	10月以降	_____

注1：数量、時期については、予定ですので変更する場合があります。

注2：参考欄は、14年度製造数量です。

注3：貨幣セットに関する情報は、インターネットでもご覧になれます（<http://www.mint.go.jp/>）

発行所 独立行政法人造幣局

〒530-0043 大阪市北区天満1丁目1番79号

電話 06(6351)6928

造幣局ホームページ <http://www.mint.go.jp/>

編集兼発行 事業部事業企画課顧客サービス室

平成15年9月24日発行（第6号）



Japan Mint